

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 8 2 月 24 日

札幌市立 新川小学校

1 新川西中学校区における学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
目指す子ども像	自分自身を高めようとする子	重点項目の達成に向け、各学校段階でつながりを意識した取組を進める	B	○年度当初に計画した具体的な取組については、ほぼ実施することができた。また中高連携した新たな取組に着手できたことも成果と言える。 ○次年度以降は、子どもたちの連携の質をあげるような取組の工夫についてCSで検討していきたい。	A	A
今年度の重点	子どもの声を聴く	子どもの声を聴き、それを生かした取り組みを進めている	A	○第2回準備委員会で、中学生の声を聴き、自治的な活動や地域連携について有意義な対話ができた。また、次年度以降の取組についての示唆を得ることができた。 ○次年度以降は、高校生や小学生の声を聴く機会を設定し、それに基づき具体的な取組についてCSで検討していきたい。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		小中高の連携をさらに進めて、関係性を強固なものにしていきたい。				

2 新川小学校における学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
目指す子ども像	自分が大切にされていると実感し、幸せを感じることができる子ども	・子どもの可能性を引き出す ・子どもをありのままに受け入れる ・子どもを励まし続ける ・子どもを支える	A	・目標を明確にし、学習や活動に取り組むことができた。 ・相手のことを思い考え行動するよう道徳教育の一層の推進する。 ・児童理解を進め、教職・関係機関を含めた情報の共有していく。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		学校は本当に子どもたちをよく見ている。「徹して一人を大切に作る学校」を重点に、不登校支援・個別の支援等を行っている。				

人間尊重の教育	目標に向かい主体的に判断し行動する意志の強い忍耐力ある子どもを育てる	・あいさつ運動の充実 ・命を大切にする指導の充実 ・委員会活動・クラブ活動の充実 ・小中高の連携・一貫した教育の充実	A	・あいさつ運動の一層の充実を図る。 ・児童による活動(委員会等)を通して話し合い、ポスター等作成・呼びかけを継続的に行う。 ・学びの支援コーディネーターを中心とした構内情報の共有化していく。 ・異校種との連携をさらに深め、連続性のある教育の一層の充実を図る。	A	A
「学ぶ力」の育成	課題探究的な学習を通して各教科を学ぶ楽しさと自分で考え解決することができる子を育てる	・ICTを活用した授業の構築する ・学び方の理解から自己肯定感を高める ・友達とともに学ぶ楽しさを実感できる	B	・ICT・一台端末の日常的な授業での活用、また教職員による効果的な活用方法の検討・交流を促進する。 ・学習のきまりの徹底と教室環境の統一を図る。 ・ドリル活用による基礎基本の確実な定着の継続していく。 ・課題発見・解決能力の継続的に指導する。	A	A
「豊かな心」の育成	命を大切にすること、人間関係を築く力、自己肯定感を育てる	・命を大切にする指導の充実 ・社会の一員として必要な公共心やコミュニケーション能力の育成 ・自分を肯定的にとらえ、自己の成長や社会での必要感を実感できる	B	・外部機関と連携した授業を取り入れる。 ・あいさつ・廊下歩行の指導の徹底する。 ・学級活動等において身近な問題を取り上げ解決する授業への取り組んでいく。 ・キャリアパスポートでの自己評価と成長の記録化をする。	A	A
「健やかな体」の育成	自ら鍛え、健康でたくましい子どもを育てる	・体を動かす楽しさを味わう機会を増やす ・食に関する指導の充実 ・健康的な行動、生活習慣を身に付ける	A	・縄跳び活動や休み時間の全員遊びタイムを充実し体力づくりを継続する ・グラウンドや体育館の遊びを充実するなど環境整備 ・給食時間のきまり、マナーの徹底 ・給食時間の食指導を行う ・家庭への啓発	A	A
いじめ対策	他人を思いやる心、生命を尊重する心を育てる	・いじめや不登校の未然防止・早期発見・早期対応	A	・日常的な見取りの継続といじめアンケートの実施の継続。 ・児童相談所・SC、SSWなど外部期間との積極的な連携を継続していく。	A	A
学校関係者評価委員会による意見		いじめ・不登校対応で、教育支援センターの機能を十分に生かし、また外部機関との連携を密にしながら組織的に対応していることはとてもすばらしい。この取り組みが一人一人を救う手立てになる。				

学校独自に 設定する分野	安心・安全な学校づくり(登下校時の安全確保)	B	登下校時の通学バスの安全確保のため冬期間1台増便したが、通年増便を希望する。	A	A
	保護者・地域との連携	A	小中高連携の強化をしていきたい。保護者ボランティアの積極的な募集を通して学校への参画を促していきたい。	A	A
	働き方改革	A	通知表の見直し、懇談等日程の見直しを行ってきた。	A	A
学校関係者評価委員会 による意見		登下校のバス指導、横断歩道での安全指導、雨の日も雪の日も毎日欠かさず先生方を見守りがあり、本当に感謝している。もっと保護者の方が協力して出てきてくれることを望む。			